

平成 30 年度 大垣市立南中学校 学校関係者評価

□保護者アンケートですが、⑮「自分の命を守る意識をもった生徒の育成」の保護者の高評価が素晴らしいと思います。安全安心は学校という団体生活の中では基礎基本であり、保護者の特に気になる重要な要素です。これは内部評価の教師アンケート（自己評価）でも当事者評価の生徒アンケートでもダントツの良い評価ですから、間違いなく保護者の信頼や安心感を得ていると思います。自分の命を守る教育は、将来に向けても大切です。

逆に⑤「授業がよくわかる」、⑥「家庭学習の定着」の保護者の高評価の数が、他と比べて一段少ないのが気になります。保護者の不安感が他より強く感じられます。家庭学習の指導や日常の授業のより一層の充実や工夫を、潜在的に求めている保護者が少なからずいると思われれます。その結果、保護者の側の不安・不満・焦りが最後には諦めとなり、学習塾等の学校外への依存と期待を生み出してしまうとしたら誠に残念なことです。

この現状に教師側が諦めず、管理職のリーダーシップと見識により、教師集団での一体的な実践とその検証によるフィードバックを継続的に実行することで、新しい展望が開けると思います。南中教職員にはその潜在パワーがあると私は思っています。

生徒アンケートですが、③「授業での話し合い活動」、⑩「いじめはいけない」、⑫「安心して生活できる」の項目が素晴らしいと思います。特に③は、学校全体での意識的な取り組みの成果だと思います。授業の活性化に大きな効果を出していると感じます。何よりも生徒たちがそのことを一番感じているからこそ、この結果が出てきていると考えられます。⑩については、今までの地道な指導のもと、確実に成果を上げている部分だと思います。南中は8年ほど前に、人権教育の研究指定を受けて実践発表されています。いい意味での伝統が生き続けていて、生徒たちの人権意識が持続的に高められていると感じます。

残念ながら⑭「夢や目標がある」は、もっと生徒たちの意識を上げたいですね。夢を実現する力は簡単には身に付きませんが、中学校の段階で自分の目標を持って、その実現にむかって意識し努力することの大切さ・素晴らしさを、常に生徒たちに教師側は伝えていただきたいと思います。

教師アンケートについて、校内で既にそのアンケート結果を分析・研究され、次年度に向けての案件ごとの対応や対策を考えられていると思いますので、ここでは特段の意見は述べません。ただ、今話題の「働き方改革」について、特に生徒も教員も減少していく南中では、学校運営の在り方や今後の方針等の根本的な見直しを急務と考えます。僭越ですが、教育の基本は「人」です。教職員の皆さんが疲弊しないで生き生きとした教師であるためにも、ピンチをチャンスと捉え業務の見直しや再編成を図り、南中の良さを伸ばす教師集団として今後もご活躍いただきたいと願っています。

□保護者として思うのは、先生方が子どもたちにとっても真剣に向き合っているということ。子どもの話からよくわかります。困ったことがあった時など、親身になり相談にのってくれるなどということを知ります。これからも南中がよりよく活気のある学校になってくれることを願っています。我が子は、とても辛いことがあっても保健の先生がよく話を聞いてもらえた、と言っていました。担任の先生とはまた違い、保健室といった癒やしの場はとても良い場所だと感じました。

□教育課程の項目に目標をたて、生徒、保護者の意見を含めて、全校で中間評価等をして、意見集約し、検討・修正は素晴らしいことです。大変ですがよろしく願います。

「自分振り返りシート（生徒用）」で高学年ほど自分に対する評価が低くなるが、自省心からやむを得ない。ただし、家庭学習の取組が目標値より低い気がするが、予習・復習に対するチェックも必要かもしれない。MJ（数学の基礎基本定着の取組）については、期待しています。レベルアップ、家庭学習の指導を強化してほしい。意見発表は、声が小さく聞きづらい。挙手発言は特定の人となりがちであり、全体的に発言できる方法も必要と思われる。

□集計結果の質問項目の内、②「授業は楽しい」、④「授業の終わりに振り返る時間がある」、⑥「褒められたり認められたりしている」、⑦「自分にはよいところがある」はいずれも1年生より3年生になると大きく劣化しているが、原因はどこにあるのか知りたい。

安心安全については、他に比し評価は高く、健全な学校生活と感じているのではないかと感じます。教職員の危機管理に対する意識の高さを感じます。

□教師も生徒も日々頑張ってみえる姿が評価の中から伝わってきます。一人一人の生徒を大切にするには、やはり教師にゆとりがないとできませんので、そのことはよく考えてください。

自由記述のところで、来年度職員が大きく減るのとのことでしたが、より忙しい毎日にならないよう願うばかりです。

□中学生ぐらいになると、勉強にしてもスポーツにしても、他との比較を無意識にしまい、できないこと、人より劣ることへの劣等感が強くなり、自己肯定感をもちにくくなると思います。できる限りその子のよさを具体的に認め、価値付けていくことが必要かと思われまます。

自己評価の記述部分を見ると、前向きな思いから厳しい評価をしているものが多く感じます。働き方改革を強く迫られる中で、充実した指導や学級・学年経営をしたいという思いが伝わってきます。矛盾する、あるいは相反する状況と思いの間で、効果的な学校経営を模索していくしかないというのが正直なところではあります。

夢や目標ということについて、およそ7割の生徒が、何らかの将来の夢や目標をもっているというのはよいことだと思います。ただ、これからの社会が予測不能の大きな変化の可能性を秘めていることを考えると、今、生徒にどんな力を付けていくのかを我々がしっかりと持っていないといけなと強く感じました。自己評価の3の②「進んで新たな物事に挑戦する生徒の育成」が特に低い評価となっているのはなぜなのか知りたいと思いました。

□どの項目の自己評価項目においても、着実に成果を上げ、教育目標が達成されており、先生方の努力に対し敬服します。

学校教育においては、次の3項目の評価が、高ければ高いほど教育内容が具現されたと考えます。

1 学力の充実

基礎・基本の学力定着はもちろんのこと、生徒の進路希望に合わせ、学力の向上を目指す。塾に通わなくても、学力の向上・定着については「学校に任せろ」という気概をもって指導する。

学力の捉え方にやや問題があるのかもしれないが、「上級学校への進学のためのテストの点数だけに固執するのではなく、獲得した学力を、想像力に変え、生きて働く力」とするのがベストであると、私は思う。

2 規範意識の高揚

教科指導はもちろんのこと、道徳、部活動及び行事で生徒を育てることを大切にしたい。特に行事を大切にしてほしい。(授業日数がどんどん削られている実情で、どれだけ時間がとれるかは、疑問であるが。)

3 誇れる自校の構築

将棋、囲碁、大縄跳び、何がよいかは生徒の実態を考慮して行ってほしい。他校と競合しない、独自のものを。合唱に力を入れるのは、大いに結構だが、特色といえるのか。大垣市、岐阜県内どこでも力を入れているのではないかと。「南中学校の生徒は、〇〇がほぼ全員出来るよ。」そのことを生徒自身はもとより、地域・親・卒業生も認め誇れること、さらに地域も協力できる体制ができれば最高と思う。

素晴らしい自己評価ができ、反省点も明らかになった。来年度に向けて、「計画は緻密に、実践は大胆に、反省は生きるものに」を教職員の合言葉として、教育のプロとして頑張ってください。